



チンロンの歴史

1500年もの歴史ある伝統競技

チンロンは、ミャンマーを代表する伝統競技ですが、似たような運動形態はタイやカンボジア、ラオス、ベトナム、インドネシア、マレーシア、シンガポール、フィリピン、ブルネイなど、東南アジア地域の至るところに存在し、それぞれ違った形、名称でのチンロンが行われていたとも言われています。
(これらの地域では、現在でも目にすることができます)



チンロンは、頭、腰、足、手の形、全身の動く形など、すべての調和がとれていることから、疲労回復のための運動として、ミャンマーでは古くから親しまれてきました。やがてパゴダ（仏塔）近くの石畳の上に、チンワイン（チンロンを行う場所のこと）ができ、チンロンの好きな人々が集まって遊び、僧侶も含め観客が集まるようになりました。



各地でチンロン祭りも行われるようになり、そこでは、6人の選手のうち一人が道化となり、おもしろおかしい仕草をしたり、かわいらしくふざけてプレイしたりすることで観客たちを笑わせるという見せ物としても楽しめるようになりました。

今では、ミャンマーの伝統スポーツとして、仏塔の祭りの場で繰り広げられるパフォーマンスとして、そして子どもからお年寄りまでみんなが慣れ親しんでいる遊びのひとつとして、ミヤ

ンマーの至るところでチンロンを楽しむ光景が見られます。ミャンマーの人々は、美しさを追求する芸術的なスポーツ、チンロンをこよなく愛しています。

(了)